

海外における教育ビッグデータの民間利用の事例

野村総合研究所 未来創発センター
制度戦略研究室長 梅屋真一郎

2021/03

NRI

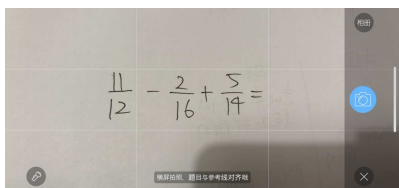
Share the Next Values!



中国では、AI+ビッグデータによるEdTechが急速に普及

■ 主要サービスの例：作業幫（Zuoyebang）

- 宿題支援アプリからスタートし、有人オンライン授業や家庭教師サービスまで拡大
- 利用者1億7千万人。（半分が地方都市）有料会員も数百万人以上。
- 既に2000億円以上の出資受け入れ。企業価値は1兆円以上
- 宿題支援アプリの概要
 - 小中高校生が宿題の設問をスマホで撮影し送信すると、設問ビッグデータ（3億件）からAIが解析し解答を数秒で返信
 - 合わせて、類似の練習問題なども提供して、理解度向上を支援
 - アプリ使用料は無料。講師による解説希望の場合、有料サービス
- 同社サービスのビジネスモデル
 - 宿題と言う反復行為に関して、ユーザーとのやり取りを記録・分析する事で、アドバイスの精緻化・コンテンツ拡大を図る
 - 既に、個々の利用者の特性（苦手・得意分野や理解の仕方など）に応じたアドバイス・練習等（アプリ・有人）を提供
 - 学校別の過去データ分析も行い、定期テスト向け予想問題等も提供
- 実質的に、利用者・学校等のデータまで含めた教育ビッグデータを公教育の外側に構築

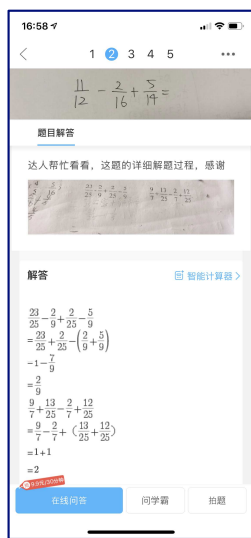


スマホで宿題撮影

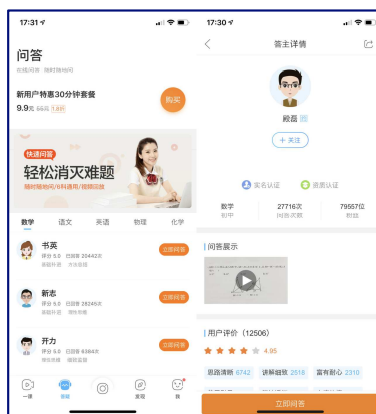
出所：Zuoyebang社



解答
返信
(無料)



講師
対応も
(有料)



学校別定期考査対策や予想問題も

日本でも、例えばこんなことが起こる可能性がある（公教育の外での教育ビッグデータ）

